

あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

第13回 議事概要

日時	2024年9月30日(月) 13:30~16:00
場所	唐戸市場 2階会議室
参加者(委員)	HBP・KAM 共同事業体：吉田、木村隼、木村大、清原、安本、有賀 専門家：熊谷、榎本、大橋 地域事業者：郷田、湊、阿部、立川 事務局：北島副市長(事務局長) エリアビジョン推進室 内田、田中、平山、村上

1. エリア内におけるあかりのイメージについて

説明者が体調不良により欠席したため、延期

2. 港湾緑地の整備について

熊谷委員より資料に基づき説明の上、議論

- 芝生の魅力的な活用や日陰の重要性に関して考慮された内容になっており、実施中の社会実験での活用状況とも整合が取れた内容になっていると考えられる。
- 水盤に関しては暑さ対策にもなると思われるが、見守る大人にも考慮できると良い。
- キッチンカーが入っても緑地との一体感が醸成できる空間構成となっていると感じられるため、将来的な活用にも前向きな案なのではないか。
- 公園管理事務所とカフェを兼ねた場所が想定されているが、この箇所については担い手とセットで検討するべき。
- 道路側から見て、高さが生まれる形になっているが、地元の方々が重視している海への視界が確保できているか否か、確認が必要
→大筋、現状の検討案で了承。
海への視界に関しても基本的に考慮に入れているが、懸念の声も想定されることから、確認ができるよう資料を準備していく。

3. モバイルユニット活用社会実験の進捗

熊谷委員、木村大委員より資料・模型に基づき説明の上、議論

- どういったものを検討しているかが具体的になり、また、緊急時の対応案についても少しずつ形になってきた。
- デザイン上は、長く外部に置くものとなるので、経年時も考慮していくことが必要。また、釘が出てしまうと安全面で課題が生じるなどもあるので、そういった点も考慮に入れて欲しい。
- ファニチャーの密度等、模型ベースで確認ができたが、段階的な実現も見据えていく必要がある。実現に向けて、まずは国との協議も必要となるが、その前提としての管理体制の検討が必要。また、風でまくり上げられるなど可能性があるため、構造上の工夫も必要である。
→国への協議に向けて管理体制について引き続き検討

4. 社会実験の中間報告と今後の予定

木村大委員より資料に基づき説明の上、議論

- キッチンカーの出店等行われているが、売上は上がっているか？
→現在中間段階であり集計は出来ていないが、出店を継続してくれていることから、一定の売り上げは実現できていると考えて良いと思われる。
- 夜間の活用において、ヨガを実施していたが、真っ暗でやっていることがわからないような状況であった。
→この点は良い面と悪い面がある。良い面としては、瞑想のようで体験価値が上がった点、悪い面は動きとして目立たなかった点。今後、照明等設計していく際に活用を見据えながらできると良い。
- 休日、何か仕掛けがあると公共空間も使われるが、平日はなかなか人がいない状態が想定される。その差が見えてくると打ち手も見えてくるのではないか。
→10月以降の実証では平日の実施も行っていく。
- 海響館の周辺に遊具を配置でき、出入りする動線も考慮されているため、多くの方に楽しんでもらって助かっている。ただし日差しがキツく、遊具の表面温度が非常に高くなることも出てきている。
- 行政サイドからすると、申請が急に出てくるのがあった。早めに調整してもらえないと困ってしまう。
→その点も含めて、どういった事項を相談すると良いか、申請の様式なのかガイドライン的なものなのか、お互いにコミュニケーションしやすくなるようなものが整えられて行けると良い。
- まだまだ多くの人に知ってもらう必要があるのではないか。広報面など工夫の余地はないか。
→フィナーレに向けて参加型の取組を企画し、市内の学校等にも配布予定。こうした企画を通じて裾野を広げたい。

以上